休日、街に出掛けたらとんでもない格好をした金髪の女を見つけたので思わず腕を掴み、声をかけてしまった
振り向いた彼女はガチガチに勃起した俺自身を見つめている
はっ…!? い、いや…これは…
…いいですよ
え?
私、用事終わって帰る途中だから…
かまいませんよ…せっくす…
プルッ
むちっ
むっちり
転載禁止

んっ…ふ、う…っんん…
マンコ挟られてんのによくそんな態度でいられるよな!? 下品すぎて全然クールに見えねえよこのデカ乳デカケツでいつも俺みてえな奴惑わせてんのか!?
ぁ…♥ あ、あなたを誘ったのは…っ、…っ♥
一瞬黙り込む彼女だったが、控えめな喘ぎ声に混ざって少しだけ笑うような声を俺は聞き逃さなかった
…はじめてっ♥せっくす…♥したくっ♥なっちゃっ…て♥さそったんです…♥
それを聞いた俺は理性を飛ばしてひたすら犯した射精した回数は分からないが、次に意識がはっきりした時には、な、なんだそれ!? と時間差で意表を突かれた
ぶにゅっ♥
ぶにゅ〜♥
ぶちゅ♥
ぶちゅ♥
ぶちゅ♥
転載禁止

だって…あんなに…おっきくなったおちんちんを見せられたら…どきどきしちゃう…

初めて恥ずかしそうな表情を浮かべた彼女に、俺は度肝を抜かれた

（こ、こいつ…性根がドスケベなのか!?）

動揺した弾みで俺の手がアナルのすぐ傍の肉を押し広げるように動くと彼女は

んううっ…♥

と身を捩じらせ、一向に萎む気配のない俺のちんぽが彼女の熟したマンコに

ずっぷりと挿入されている状態にも関わらず尻を振った

はぁ…♥　元気なんですね…♥　時間はお気になさらないで下さい…♥　私、こんな気持ちいいコト、ずっとしていたいですから…♥

俺はちんぽを抜かないままセックスを続けた

転載禁止

どろぉこ♡
それから激しい交尾に明け暮れて、気づけば大学の時間が近づいていた。
はぁ…♡
あ…もう朝なんですね…
私…このまま、せ、セフレというものに、なりたいんですけど…
え!?
私…この近くの大学に通っていて…
驚いてしまったが急に胸が踊りだしてきた。
家の近くの大学って…とかの話どころじゃない
こ、これはつまり…!?
…あっ！
もしよければ、ですけど…
…いえ、お願いします
私、あなたと、次も――…♥♥
ふぅ♡
ベちゃ～♡
どっろぉ♡
ビクッ
ビキッ
転載禁止